令和8年度

箸蔵小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

〇基礎基本の定着を目指すとともに、学び合いを深める力を育むことができる授業の工夫・改善
〇家庭との連携による生活・家庭学習習慣の確立

校長

学力向上推進員

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

各学期ごとに学力向上検討委員会を設け、成果と課題について検討する。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇「話の聴き方あいうえお」を意識して話を聴こうとしている。 ●漢字や計算の定着に個人差があり、身に付けた知識等を関連付けることに課題がある。	・漢字や計算を中心とした基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができる。 ・学習規律や学習スキル（聴く・話す）をしっかりと身に付けることができる。 ・朝の学習、タブレットのドリル学習、自主学習など様々な学習を工夫して取り組み、一年を通して習熟率が安定する。	・朝の活動の時間にドリル学習や復習（間違い直しも含む）に継続的に取り組ませる。 ・タブレットのドリル等を活用し、繰り返し復習できるようにする。 ・「話の聴き方あいうえお」を継続して、聴く態度・聴く力を確立させる。	継続して取り組んで行く。		

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇一つ一つの課題に対して一生懸命に取り組むことができる児童が多い。 〇ノートやタブレットで、根拠を明確にして自分の意見をまとめたり、図や式、言葉を使って表現したりすることができる児童が増えている。 ●伝えたい内容と提示する資料の整合性を高めることに課題が残る。	・自分の伝えたい事柄を聞き手に伝えるときの発表方法、選択する資料を工夫することができる。 ・自分の学習を振り返り、他者と比較し、相違点等を見付けることで学びを深めることができる。	・ペア学習やグループ学習の時間を取り入れ、言語活動を通して学びを深める機会を設定する。 ・ICTやシンキングツールを用いて資料をまとめ、自分の考えを整理させる。	・他者と意見を比べたり、類似点を見付けたりする活動を取り入れる。 ・文章を読み取る活動で、根拠を添えて発表できるようにする。		

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇家庭学習に主体的に取り組むことができる児童が増えてきた。 〇一つ一つの課題に対して一生懸命に取り組むことができる児童が多い。 ●自主学習の内容に偏りがあり、個人差が見られる。	・自主学習などで、自分で課題を見付け、課題を解決するための調べ学習や情報整理をすることができる。 ・読書や自主学習、家庭学習時間の時間を主体的に取り組み、自らの学びを充実することができる。	・見通しをもって学習に取り組むことができるよう、めあてや単元計画を提示し、児童が計画的に学びに向かうことができるようにする。 ・振り返りの時間を充実させ、自分を客観的に見ることを通して自己の学びを深める機会を設定する。 ・読書オンリーデーを設け、読書に親しむ機会を設定する。	継続して取り組んで行く。		